

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田 3-4-5	氏名	(株)毎日新聞社 代表取締役社長 丸山 昌宏
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		新聞制作、印刷発行を行うと共に一般テナントも入居している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	14,983 t-CO <sub>2</sub>	14,336 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,491 t-CO <sub>2</sub>	15,791 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	0.3 %	0.7 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	0.2 %	0.6 %	4.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度は新聞印刷設備の稼働が減ったこともあり、生産関係の使用電力量が減少する結果となりました。照明のLED化も継続しており、電力削減効果をもたらしていると思います。削減目標の達成状況は目標3%に対して4.4%の削減率を達成しました。</p>
--

(2) 推進体制

2016年ISO環境マネジメントシステム(14001)認証をやめ、「毎日新聞社大阪本社環境マネジメント事務局」として存続。監査委員や推進委員を置き、全体を8つのユニットに分割し、各ユニットにユニットリーダーを選任し、年6回程度の事務局会議を開催。各推進委員、ユニットリーダー経由の連絡と共に議事内容、決定事項については、環境マネジメント事務局から大阪経営会議に報告。トップダウンで情報、指示が末端まで流れるようにしている。

決定事項は全社社員が閲覧できる社内ポータルHPや各階の掲示板にも掲示される。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	14階編集局の照明をLEDに更新する。(年間85.61t-CO2を削減)	2015年度 ～ 2016年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	1階トラックヤードの照明をLEDに更新する。(年間25.58t-CO2を削減)	2015年度 ～ 2016年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	毎日新聞ビル・毎日インテシオ	コード (1218) 照明のLED化	1階フロアのダウンライトをLEDに更新する。(年間14.09t-CO2を削減)	2015年度 ～ 2016年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	1階フロアの照明をLEDに更新する。(年間4.70t-CO2を削減)	2015年度 ～ 2016年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	13階フロアの照明をLEDに更新する。(年間98.14t-CO2を削減)	2016年度 ～ 2017年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	15階フロアの照明をLEDに更新する。(年間31.84t-CO2を削減)	2017年度 ～ 2018年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	9階食堂・喫茶の照明をLEDに更新する。(年間34.45t-CO2を削減)	2016年度 ～ 2017年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	1階毎日ロビー壁面の照明をLEDに更新する。(年間0.47t-CO2を削減)	2016年度 ～ 2017年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	B1階フロアの照明をLEDに更新する。(年間80.91t-CO2を削減)	2017年度 ～ 2018年度
	人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	毎日新聞ビル	コード (1218) 照明のLED化	10階フロアの照明をLEDに更新する。(年間13.57t-CO3を削減)	2017年度 ～ 2018年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都品川区大崎 1-11-3	氏名	前田道路株式会社 代表取締役 武川 秀也
特定事業者の主たる業種		6総合工事業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		土木建築工事の請負、設計並びに監督、土木建築工事の緒材料の製造販売等前項に附帯する一切の事業を行っており、弊社関西支店には営業所を10箇所と合材工場14箇所を保有しております。そのうち大阪府内には、関西支店を含み4営業所、6合材工場があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	17,574 t-CO <sub>2</sub>	15,816 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,081 t-CO <sub>2</sub>	16,097 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%	
		削減率(原単位ベース)	2.0 %	-15.3 %	-6.1 %	-5.2 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-15.6 %	-5.4 %	-4.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 合材製造数量 ( t ) )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
事業計画にて設定	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

製造数量は減っているが、製造材料の含水比及び装置の維持管理で燃焼量が増えた。
--

(2) 推進体制

各事務所所有の車の入替に伴うエコカーの導入、全車GPS機能設置による適切な速度管理と無駄な移動のチェック。プラントにおいては適切なプラント設備の設置と出荷バランスの調整、プラント廃熱利用及び天日干しによる過熱時間の短縮に取り組みます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	大阪合材工場	コード (1121) 燃焼設備の効率化	プラント新設に伴う燃焼設備の燃費の向上に合わせ、ドライヤーの余熱乾燥装置を設置し、砂の含水比の低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
2	GHG排出	寝屋川合材工場	コード (1121) 燃焼設備の効率化	ドライヤー燃焼方式の変更により、ドライヤー運転効率の向上を図る	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
3	GHG排出	泉北合材工場	コード (1121) 燃焼設備の効率化	ドライヤー燃焼方式の変更により、ドライヤー運転効率の向上を図る	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
4	GHG排出	羽曳野合材工場	コード (1121) ドライヤー・バーナーの交換	ドライヤー・バーナーを小型化することで運転効率の向上を図る	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
5	GHG排出	寝屋川合材工場	コード (1126) LED照明に変更	プラント内の全照明をLED照明に入れ替えることで電力削減を図る	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				
6	GHG排出	大阪中央合材工場	コード (1126) LED照明に変更	プラント内の全照明をLED照明に入れ替えることで電力削減を図る	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全営業所、合材工場	コード (2121) エコカーの導入	車の入替の際は、積極的にエコカーを導入する	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	レ GHG排出	全営業所、合材工場	コード (2121) GPSの設置	全車両にGPSを搭載する事で社員のアイドリングや車での無駄な移動を防ぐ	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	住所	京都府乙訓郡大山崎町大山崎小泉 1	氏名	マクセル株式会社 代表取締役 取締役社長 中村啓次
特定事業者の主たる業種			29電気機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		電池の製造を中心に、各種電池部品の製造及び電池の開発本部で製品開発を行っています。			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,130 t-CO <sub>2</sub>	859 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	4,539 t-CO <sub>2</sub>	911 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.0 %	7.4 %	25.8 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	7.2 %	26.2 %	80.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

継続的な省エネ活動の実施および事業所再編計画に伴うエネルギー消費の減少等により79.3%の削減となり計画期間の目標を達成した。
---

(2) 推進体制

全社的に地球温暖化防止対策に取り組んでおり、エコファクトリー部会では定期的に活動状況の報告を行い各部門での対策検討などの省エネ活動を行なっています。またISO14001の環境マネジメントシステムによる環境改善活動を推進しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1215) 空調設備の導入	空調設備更新。研究棟空調老朽化設備の更新を28年度より順次計画する。 (25.4t-CO2/年) H29年度事業所閉鎖予定のため中止。	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1215) 空調設備の導入	空調設備更新。製造部門空調老朽化設備の更新を28年度より順次計画する。 (35.5t-CO2/年) H29年度事業所閉鎖予定のため中止。	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1215) 空調設備の導入	空調設備更新。プレス工場空調老朽化設備の更新を28年度より計画する。 (6t-CO2/年) H29年度事業所閉鎖予定のため中止。	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1218) 照明設備の導入	照明器具のLED化。常夜灯など範囲を決めて順次計画する。 H28年度生産エリア650台のLED化実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1113) 圧空設備の運転管理	組立・仕上ライン用コンプレッサの生産体制に対応した運転管理。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1113) 圧空設備の運転管理	プレス生産体制に対応したコンプレッサの運転台数管理。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (5112) 照明間引き	工場内倉庫等の照明間引き、事務所離席時の個別照明オフの徹底。 倉庫エリアの間引きおよび事務所の離席時消灯を継続して実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪事業所	コード (1113) 空調設備の運転管理	空調機のウィークリータイマ制御による運転管理を行う。 開発部門の休日OFF設定を行ない空調運転管理を継続して実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市八阪町2-1-10	氏名	松浪硝子工業株式会社 代表取締役社長 松浪 明
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医療・理化学および光・電子部品用硝子製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,904 t-CO <sub>2</sub>	5,802 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,463 t-CO <sub>2</sub>	6,452 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-12.6 %	-39.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-12.6 %	-38.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>①工場内電気設備の使用電力量を調査し省エネ化対応を都度実施 ②空調設備管理の展開(設定温度管理、フィルター及び室外機の定期掃除の実施) ③休憩時の消灯活動展開と電気設備未使用時の電源遮断管理の継続実施 ④新規受注増大に伴う生産設備の増設で使用電力増加。</p>
---



(2) 推進体制

当社では、2003年5月にISO14001を認証取得。管理部部长を省エネルギー推進体制の長とした管理組織を結成しエネルギー使用量の削減を図っている。具体的には、エネルギー使用量の大半を占める電力使用量について、年度毎の削減計画を策定し、月例環境管理推進会議にてその進捗を把握すると共に改善の検討を図っている。

日々管理については、24時間電力管理システムを導入しデマンド管理と環境目標達成目的で電力使用者（全社員）へ電力データでP→D→C→A 省エネ対応を実施しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1111) 推進体制強化と 温暖化対策の認 識向上	省エネ推進体制の強化 会社トップの管理部部长を省エネルギー推進体制の長として温暖化対策に関する研修や教育を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1112) エネルギー使用 に関するデー ター管理	24時間電力使用量管理システムにて管理部で集中管理しエネルギー使用者(全社員)へ電力使用状況をフィードバック	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1113) 設備の運転管理	各設備の負荷状況、使用状況に応じ、稼働台数の調整、稼働装置の選択等により合理化稼働を実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1114) 保守及び点検	空調設備のフィルターの清掃、照明機器の清掃、生産設備の保守点検を行い、各設備、機器を良好な状態に維持する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1126) 電気の動力、熱 変換の合理化	装置の適正運転 不用時未使用時の電源遮断	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1216) 空調設備の適正 使用と合理化	空調機器の温度の適正化を図り、過剰な使用を無くす。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (1218) 照明設備の適正 使用	照明器具の照度の適正化を図り、過剰な使用を無くす。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (2113) 自動車の使用管 理	自動車の使用状況管理 (低燃費運転及び安全運転) ガソリンの使用状況管理	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (2114) 自動車の適正な 維持管理	自動車の適正な維持管理 (保全管理)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード (2121) 低燃費車の導入	低燃費車の導入 (2 2 台中 1 4 台がハイブリッド車で軽自動車5台 普通車1台 トラック2台)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市渋川町2-1-3	氏名	松本油脂製菓株式会社 取締役社長 木村 直樹
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		界面活性剤及びその加工品の製造並びに販売。油剤・蠟・鉱物油及びその加工品の製造並びに販売。合成高分子化合物及び有機化学薬品の製造並びに販売。農芸薬品の製造並びに販売。等を行っており大阪と静岡に各1工場あります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,164 t-CO <sub>2</sub>	5,859 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,359 t-CO <sub>2</sub>	6,028 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.2%	1.2%	3.3%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.3%	2.1%	3.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 本社工場生産数量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>本年度は、基準年度に比べ生産量及びエネルギー使用量共に減少。従業員の省エネ意識の向上及び原単位の小さい商品開発。生産工程の改善により目標達成できた。</p>
---

(2) 推進体制

環境マネジメントシステムを導入しており（ISO14001承認取得済み）。毎月一回原単位・使用量の確認による省エネルギーの進捗状況を確認・検討している。設備の更新時は、省エネルギー及び効率の良い機器を導入する。電気の需要の標準化は、当社周辺住宅地の為操業時間が昼間に限定している。コージェネレーションの稼働率を上げる事で対処する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) 動力用変圧器の更新	動力用変圧器を高効率に更新 (5台) (年間15 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1218) 照明器具の更新・改善	工場内及び現場事務所の照明器具の省エネタイプに更新及び改修 (例水銀灯→省エネタイプの蛍光灯) (年間2 t-CO2)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1211) 原料溶解設備の改善	乾式溶解庫より湿式溶解庫に改善し都市ガス使用量の削減 (年間10 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

		大阪市西区北堀江3丁目9番10号		丸一鋼管株式会社 代表取締役社長 吉村 貴典
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に鋼管の製造、加工及び販売を行っており、全国に8工場、7事務所を置いている。うち、大阪府内では3工場で生産を行っている。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	15,675 t-CO <sub>2</sub>	15,107 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	17,631 t-CO <sub>2</sub>	16,995 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	6.0%	-2.8%	-5.9%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-2.8%	-6.1%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量(堺工場に換算) )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

各事業所で生産品目等違うため、下記のように設定した。

- ・堺工場は、生産量(千t)
- ・堺特品工場は、生産本数(百本)
- ・本社、大阪倉庫は、出勤日数(日)

各事業所の原単位を堺工場に換算し、換算生産量を算出した。

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>生産量が減少となり、温暖化効果ガス排出量は削減したが、原単位については、品質向上目的での設備増により、エネルギー使用量が増加した。また、大阪工場の堺工場への統合プロジェクトにより、生産設備の移設工事を行なったが、ラインが軌道に乗るのに半年ほどかかった。</p> <p>製品値上げにより小ロット化、生産減となり、サイズ替え回数が増え、生産以外のエネルギー使用量が増えた。年々、原単位の悪い製品(生産工程が多い製品)の割合が増えてきている。</p> <p>目標年度と比較すると、さらなる対策強化が必要である。</p>
---

## (2) 推進体制

<p>当社では、”地球と自然と人類との共存共栄”を基本理念とし、このパイプ役となるよう努めています。 また、堺工場、大阪工場及び本社では、ISO14001の認証を取得しており、各事業所でEMSの活動目標を設定し、その目標に沿った形で活動に取り組んでいます。</p>
--

## (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

## 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空気調和設備の 運用改善	冷暖房の温度設定を最適にする。 (年間 3.33t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) 照明設備の運用 改善	天井照明等の最適な点灯 (こまめな消灯) を行 う。 (年間 12t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 省エネ対策会議 開催	全ての事業所において、毎月省エネ対策会議を 開催する。 (年間 10t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 高効率電動機の 採用	旧タイプの直流電動機設備を高効率の可変速電 動機に更新した。 (年間 133t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 高効率加熱イン バータの採用	旧タイプの加熱設備を高効率インバータに更新 予定。(平成31年度に延期) (年間 126t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率の照明器 具の採用	天井照明の老朽分をLED器具に更新した。 (平成27年度) (年間 18.0t-CO2削減) (平成28年度) (年間 29.4t-CO2削減) (平成29年度) (年間 20.2t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1114) コンプレッサの 点検	コンプレッサの定期点検を実施した。 (平成27年度) (年間 10.4t-CO2削減) (平成28年度) (年間 13.0t-CO2削減) (平成29年度) (年間 17.1t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (1114) ボイラーの点検	ボイラーの定期点検を実施した。 (平成27年度) (年間 13.0t-CO2削減) (平成28年度) (年間 11.9t-CO2削減) (平成29年度) (年間 12.1t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) エアブローの ブロワ化	エアブローのブロワ化によるコンプレッサ使 用量の削減予定。 (年間 18.3t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 変圧器の間引き 運転	生産設備削減のため、変圧器の間引き運転をす る予定。 (年間 11.0t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) ボイラーの運転 管理	冬を除く昼休みにボイラーを停止した。 (年間 13.0t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	堺特品工場	コード (1121) ボイラーとヒー トポンプの併用 運転	乾燥設備の灯油ボイラーを灯油ボイラーと循環 加温ヒートポンプの併用運転とする予定。 (年間 13.1t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	堺特品工場	コード (1217) 給湯設備の更新	厚生棟風呂給湯器を灯油ボイラーからヒートポ ンプ式に更新予定。 (年間 6.0t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1218)	事務所蛍光灯をLEDに更新予定。	2015 年度

14	レ	人工排熱	堺特品工場	照明器具のLED化	(平成29年度) (年間 0.02t-CO2削減)	～ 2017 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	本社	コード (1218) 蛍光灯の間引き	本社ビル内の事務室等の蛍光灯の間引き。 (平成27年度) (年間 0.582t-CO2削減) (平成28年度) (年間 2.083t-CO2削減) (平成29年度) (年間 2.917t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	本社	コード (1218) 階段照明の更新	老朽化した階段照明の更新予定。 (年間 0.502t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	本社	コード (1218) 照明器具のLED化	事務室内の照明器具の更新 (LED化) (平成27年度) (年間 2.308t-CO2削減) (平成28年度) (年間 0.07t-CO2削減) (平成29年度) (年間 0.04t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	堺工場	コード (5121) 加熱設備の夜間稼働	電力使用量の多い加熱設備を夜間稼働した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明器具のLED化	天井照明をLED照明にした。 (年間 29.24t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 受変電設備更新	特別高圧→高圧化に伴い、受変電設備一式更新した。(追加項目) (年間 35.3t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) 燃料使用量の節約	社用車のアイドリングストップと経済速度での運転、及び必要最小限の使用。 (年間年間0.97 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	社用車買い替えの際の低燃費車の積極的導入 (年間0.606 t-CO2/台 削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

### (4)その他の抑制対策


# 実績報告書

		大阪府東大阪市長田3丁目6番10号		丸協運輸株式会社 代表取締役社長 渡部 智
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般貨物自動車運送事業、貨物自動車利用運送事業、倉庫業、通関業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	2,245 t-CO <sub>2</sub>	2,432 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,287 t-CO <sub>2</sub>	2,528 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.0 %	-0.9 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-2.8 %	-2.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>物量が増え、車両の稼働も多くなり、燃料使用量が増加した。また、CNG車の台数も減少した為、温室効果ガスの排出量削減には至らなかった。</p>
---

(2) 推進体制

<p>輸送効率の向上と燃費向上を重点的に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月部署内会議を行い、輸送効率向上について検討を行っています。</li> <li>・毎月乗務員との個人面談を行い、燃費向上に向けての教育を行っています。</li> </ul> <p>月毎に一度部署責任者会議を行い、目標に対しての進捗状況や対策を検討しています。</p>	<p>・3ヶ</p>
--	------------

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 消灯の適正化	こまめに照明設備のスイッチをオフにする。 (一つのフロア内で部分的に消灯する)	2015 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2		GHG排出	本社	コード (1112) 空調温度の適正化	冷房温度28℃ 暖房温度18℃の推進	2015 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
3		GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 夏服制服を作成導入	クールビズの導入	2015 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
4		GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 消費電力の低い電気製品の採用	LED照明の推進	2015 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコ運転の推進	エコ運転の実施	2015 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 燃費データの管理	車両ごとの燃費のデータを管理する。	2015 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコ運転が実施出来ているかの管理	デジタコを導入し、エコ運転の管理を行う。	2015 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 燃費効率の向上	ハイブリット車の導入	2015 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策




# 実績報告書

		大阪府高槻市緑町 2 1 - 3		丸大食品株式会社 代表取締役社長 百済 徳男
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 1 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 2 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 3 号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ハム・ソーセージ等、食肉加工食品の製造販売		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2014 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	15,882 t-CO <sub>2</sub>	15,820 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,953 t-CO <sub>2</sub>	16,630 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	1.9 %	-0.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	1.7 %	1.8 %	7.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>主要事業所である高槻工場において、総生産量の増加及び小ロット生産が増加をしたが、エネルギー使用量を管理する事や省エネ設備への設備更新を進めてきた効果で温室効果ガスの排出量が削減できた。</p>
---

(2) 推進体制

丸大食品高槻工場はISO14001を取得し、環境マネジメントマニュアルを確立し、実施し、維持している。また、環境保護対策として月に一度推進委員会を開催しており、現状の把握、現状改善の検討、改善項目の進捗状況の報告等をおこなっている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	高槻工場	コード (4999) クーリングタワーの統合	クーリングタワー統合による省エネ 薬注による省エネ (年間△15kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1199) 蒸気関係の対策	給湯配管断熱、蒸気配管及びバルブ・トラップ断熱、省エネパトロール実施による蒸気漏れ早期発見 (年間△15Kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1113) コンプレッサー I V 化	コンプレッサー I V 化による省エネ (年間△40 kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1114) 冷凍機の入替	冷凍機入替による省エネ (年間△15 kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1113) 解凍機の運転方法見直し	解凍機運転設定見直し、運転方法見直しによる蒸気と電気使用量削減 (年間△20 kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1113) 冷凍機運転方法変更	冷凍機運転方法変更による省エネ (年間△15 kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1113) 工場照明 I V 化	工場照明 I V 化 (年間△20 kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	高槻工場	コード (1113) 冷凍庫冷凍機運転停止	凍結庫冷凍機運転停止による省エネ (年間△40Kℓ-CO2)	2017 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西営業部・大阪営業所	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進によりCO2排出量の削減をはかる	2017 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策
